

## (2) リーディングプロジェクトの経過

2年目のワークショップでは、健康増進計画を住民参加・参画型で推進するためのノウハウを試行し、検証するために「リーディング・プロジェクト」を実施しました。「リーディング・プロジェクト」では、住民自らが「企画（Plan）－実践（Do）－評価（See）」を試行的に実践していきました。

### 企画（Plan）

#### step 1：条件提示

まず、住民参加・参画型健康づくり活動を企画する上での条件を確認し合いました。

＜リーディング・プロジェクトの条件＞

1. 健康増進計画に関係していること
2. 自分が健康・元気になれること
3. 地域が健康・元気になれること
4. 自分が関わってできること

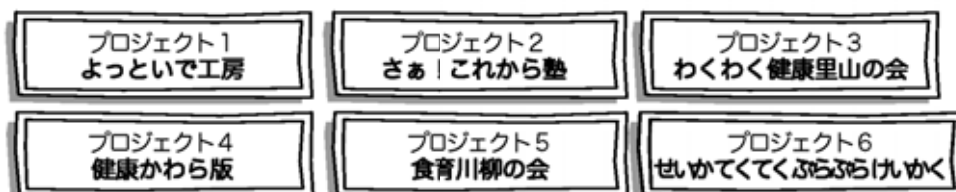
#### step 2：アイデア出し大会

ここでは、思いつく限りのアイデアを自由に出し合い、どんなアイデアが考えられるかをみんなで確認しました。アイデア出し大会のポイントは、最初から良いアイデアを出そうとするのではなく、考えられる可能性を自由に出し合うこと。そのため、「質より量を出す」「人の発言を批判をしない」「遊び心を忘れない」などのルールを確認して話し合いました。その結果、32個のアイデアが出されました。

#### step 3：お店開き

出てきたアイデアの中から、「どうしてもこのプロジェクトをやりたい!」と「店主（プロジェクト責任者）」が出てきたプロジェクトが4つ。店主は現れませんでした。やりたい人が多かったプロジェクトが2つ。合計6つのプロジェクトを実施することにしました。

＜6つのプロジェクト＞



#### step 4：企画書作成

6つのプロジェクトごとにグループを形成し、プロジェクト実践に向けての企画書作成を行いました。（次ページの企画書様式参照）

### 実践（Do）

7月～11月までをプロジェクト実践期間とし、プロジェクトごとに試行的な取り組みを実施しました。（各プロジェクトの取り組みは62ページ以降に掲載）

## 事業企画シート

活動名	*わかりやすく親しみやすい活動名を考えよう！
趣 旨	*なぜ、この活動を行うのかの理由・背景は？
健康増進計画との関係	*策定中の健康計画のどの部分を実践しようとしているか？
目 標	*この活動で達成したいことはどんなことですか？
対象者	*誰を対象にした活動ですか？
資 源	*この活動に使える手持ちの資源はどんなものですか？
実施場所	*この活動の実施場所はどこですか？
運営者	*この活動を運営するのは誰ですか？（メンバーの名前もしくは主催する団体の名前）
しくみ	*この活動を実施する上で必要な協力体制やしくみを図示してみよう！
実施頻度	*この活動を実施する頻度はどの程度ですか？
活動資金	*この活動のための予算はどの程度ですか？どうやって確保しますか？
広 報	*この活動のPRをどのようにして実施しますか？

実施計画	*この活動を実施するための準備計画及び会を立ち上げた後の実際の運営計画を書いてください。	
	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
	1月	
	2月	
	3月	
備考	*この活動を実施する上で留意する必要があることを書いてください。	

## プロジェクト1 よっといで工房

**趣旨** 世代を通じて集まれる場所、たまり場づくり

**目標** 大目標…手作業を通じて世代間交流がもてる  
元気、生きがい、楽しみを作れる場所となる  
小目標…各地域で集まりの場ができる  
参加者の広がりがみられる

高齢者の方が生きがいを持って毎日を過ごしたり、子育て中の親たちが、異世代の子育ての先輩と交流を図る場にしていきたい。これを達成するにあたって、手作業が、人が集まり集うための呼び物になればと思って始動しました。

## step 1 プロジェクトの方向性の共有

「世代間交流」をしたいという思いは一緒でしたが、内職に対する思いがメンバーで意見が様々あり、話がまとまりませんでした。内職という言葉が「お金」「暗い」「貧しい」のイメージがありますが、実際に店主さんが内職（花びら作り）を持ってきて内職をしながら話し合いをすることで、雰囲気も和み話し合いが進みました。活動名が決定し、発表用ポスターを作成しました。

回数	日時	参加者
1	平成19年 4月23日	大人 7人
2	5月 9日	大人10人
3	5月28日	大人10人
4	6月13日	大人 8人 子ども 1人
5	7月 2日	大人 2人 子ども 1人
6	7月 5日	大人 7人
7	7月 9日	大人 8人 子ども 3人



▲ 花びらの完成形

## step 2 集まりの場づくりと仲間づくり

実際の活動は、光台、乾谷、北稲、僧坊の集会所で実施されました。花びら作り、ハガキの詰め合わせ、絞り細工の型紙作り作業等を行いました。

メンバーの声かけにより子育てサークルメンバーの参加があったり、「手作業があるので自然に話ができ、居心地がいい」「世代を問わず交流できてよかった」「地域にサロンを作っていけたら」との声も聞かれました。



▲ 北稲集会所

回数	日時	参加者
8	平成19年 7月30日	大人 6人 子ども 3人
9	8月17日	大人13人 子ども 1人
10	8月27日	大人 7人 子ども 1人
11	9月10日	大人10人 子ども 1人
12	9月25日	大人 5人 子ども 1人
13	10月 9日	大人 5人 子ども 1人
14	10月22日	大人 6人
15	11月 6日	大人10人 子ども 7人
16	11月12日	メンバー4人



▲ 光台四丁目集会所



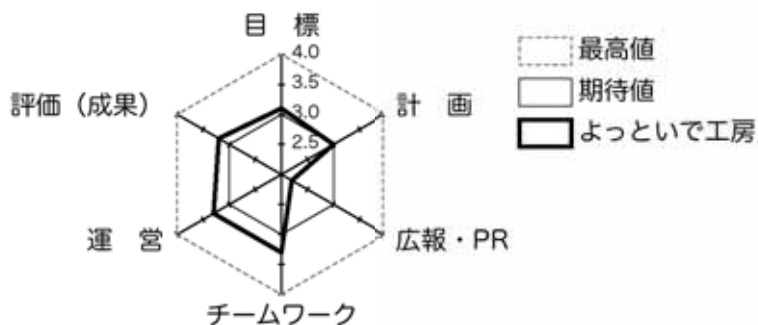
▲ 乾谷集会所

### step 3 これまでの活動の発表

せいか祭りで展示するために、これまでの活動記録を模造紙にまとめました。当日は、活動の様子や経過を説明しました。



### 評価 「よっとで工房」についてメンバーが振り返った評価



#### <メンバーの評価の感想>

参加者は満足度が高く、手作業をしながらいろいろな話ができ、楽しく元気がもらえました。計画時の目標はほぼ達成できました。

課題としては、参加者の広がりが不十分で、広報・PR・関係機関との連携不足が挙げられました。今後継続していく上では、上記の課題に加え、手作業（内職）の確保、収益金の分配、利用方法をどうするかが挙げられました。

#### <参画メンバー>

- |              |              |             |
|--------------|--------------|-------------|
| 上本 苗子 (光台)   | 大喜多 智恵子 (北稻) | 鎌田 政子 (南稻)  |
| 近藤 かほる (光台)  | 澤田 依久世 (北稻)  | 武田 静子 (乾谷)  |
| 田中 紀代子 (桜が丘) | 小城 智子 (衛生課)  | 齋藤 千冬 (衛生課) |

## プロジェクト2 さあ！これから塾

**趣旨** 気楽に人が集まり、情報の収集、発信ができる

**目標** 人が集まれる場づくり  
情報の収集発信ができる

**対象者** 50、60代の男女

**資源** 集まった仲間の経験と知恵、ボランティア精神

定年を迎えた人、子育てを終えた人が集まって、何かを作り出す場を作りたいと考えました。最初から「何かをするから集まれ」と人を集めるのではなく、まず集まって、集まった人たちで何かを作っていくという志向。

### step 1 活動名、趣旨、健康計画との関係、目標、対象者、活動内容の決定

事業企画シートにそって活動名、趣旨、健康計画との関係、目標、対象者、活動内容について話し合いました。「好きなことを通して集える場」「情報収集・発信」の場をつくろうと意見が一致しました。活動メンバーについては、人を集めるかどうか意見が分かれましたが、「このメンバーでできることを行う」ということになりました。実施内容や開催頻度については、参加者の状況を見ながら無理のない形ですすめていきたいという思いを大切にしました。

回数	日時	参加者
1	平成19年 4月23日	12人
2	5月 9日	10人
3	5月18日	12人
4	6月 5日	17人
5	6月12日	9人
6	6月20日	8人
7	7月 5日	8人
8	7月20日	4人
9	8月27日	7人



▲ 趣旨説明

### step 2 「さあ！これから塾」開催

第1回目は37名の参加者で、賑やかにスタートしました。5グループに分かれて、会でやりたいことを話し合うことから始めました。



▲ 第1回意見のまとめ

回数	日時	参加者
第1回	平成19年 9月11日	37人
打ち合わせ		8人
第2回	10月 2日	24人
第3回	10月16日	19人
第4回	11月 5日	27人
打ち合わせ		13人

メンバーで役割分担を行い、個々が積極的に会を進行することができました。

登録名簿をつくり、互いに連絡がとれるよう情報交換をしました。



▲ 第2回グループワーク

第2回目では、登録名簿をみながら自己紹介のあと、再度どんなことをしたいか意見を出し合いました。

- ・全体で定例的に集まっていきたい
- ・息抜きの場
- ・出逢いの場
- ・情報の発信の場
- ・井戸場会議（会話する、仲間づくり）
- ・いろいろな趣味をかじりながら集いたい（趣味：ナツメロ、歌声喫茶、ガーデニング、利き酒の会など）

毎回終了後に参加者みんなで次回の日程を決めます。

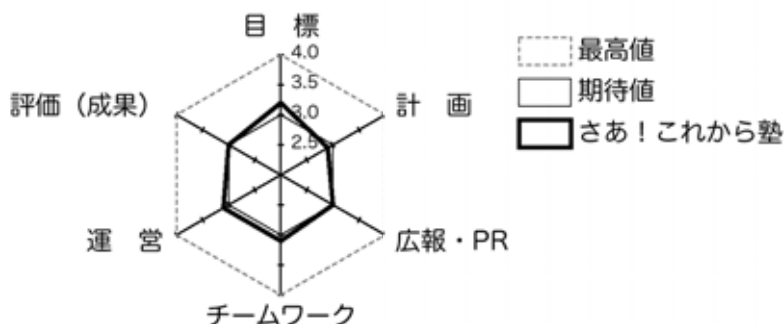


▲ 第3回桜が丘の散策と菜膳の食事会



▲ 第4回歌声喫茶  
(プロの歌手の歌唱指導や輪唱など)

**評価** 「さあ！これから塾」についてメンバーが振り返った評価



＜メンバーの評価の感想＞

「計画」が一番期待値を満たしにくかったです。住民ニーズの情報収集は同年代である参加者自身の考えのみにとどまりました。ニーズに大きくずれはなかったと思いますが、幅広くリサーチし、明らかにしてみても良かったと考えます。計画の中身を理解するという点では計画作りから入っていた者が8名中3名ということもあり運営で充分いかしきれなかったように感じます。計画の内容を運営者に十分理解できるような仕組みが必要です。

「目標」が一番満足の高いものになりました。運営メンバーと同年代の企画ということもあり無理のない目標をたてることができました。つながり、情報収集・情報発信が大きな目標であることがみんなの中で常に共有され、運営することが出来ました。

＜参画メンバー＞

- |            |             |             |             |
|------------|-------------|-------------|-------------|
| 井原 浩二 (菱田) | 上野 明子 (衛生課) | 小川 妙子 (光台)  | 下野 美江子 (光台) |
| 千葉 弘子 (光台) | 原 和栄 (光台)   | 古海 りえ子 (光台) | 吉田 康浩 (菱田)  |

## プロジェクト3 わくわく健康里山の会

- 趣旨** 自然の中で心身ともにリフレッシュする  
子どもにとって自然の大切さを学ぶ機会、家族にとっては心の健康づくりやコミュニケーションの場となり、高齢者にとっては遊びの伝承の場や交流の場になる
- 目標** 大目標…自然と触れあい丈夫な心身づくりと里山づくりを通して生きがいづくり  
小目標…里山を知り、里山づくりを企画する

山に入って、自分自身がリフレッシュして健康になるということ、里山が家族や仲間と過ごす場となるよう、活動していきます。まずは、メンバーとその家族でバーベキューや音楽会を企画します。精華町里山保全モデル事業とも連動していきます。

### step 1 健康増進計画とのつながりと目標の確認

「里山」を健康づくりのために活用したいという店主的思いに7人が集まり始めました。森林浴や山遊びができる場所やベンチや椅子やテーブルを作りたいといった『ものづくりをしたい』、わらびやぜんまいなど『自然の恵みを得たい』など、里山でしてみたいことを出し合いました。そして、目標や健康増進計画との関係を確認し合い、今後の計画をたてていきました。

また、実際に里山を見学したり、里山整備も体験し、楽しい時を過ごしました。

回数	日時	参加者
1	平成19年 4月23日	7人
2	5月 9日	7人
3	5月21日	17人
4	6月 6日	13人
5	6月18日	15人
6	7月 5日	12人



▲ 橋づくり

### step 2 方向性の共有と里山整備

倒木で橋を造ったり、名札やカスタネットを作るための材木を集めて整形しました。この頃、何も決めず里山に行き、作業を始めたりで、方向性の共有ができなくなっていました。そこで、会が始まる前に話し合いの場を持つようにしました。また、山に行く前に、切り出したプレートにサンドペーパーをかけ、カスタネットを作ったり、メロンの種を使って飾りを作ったりもしました。そして、栗を拾うなどの秋の実りを堪能しつつ、下草を刈ったり、ナツハゼの挿し木をしたりと、里山整備も行っていきました。



▲ 階段づくり



◀ 木の名札つけ





▲ 木をプレート型に切ってやすりをかける作業

回数	日時	参加者
7	平成19年 7月30日	15人
8	8月20日	15人
9	9月10日	15人
10	9月28日	8人
11	10月22日	10人
12	11月 7日	13人
13	11月18日	6人

### step 3 活動の発表

せいか祭りでは、今まで集めてきたプレートや木の実を使って子どもが工作できるように準備をしました。

当日は子どもたちを中心に約50人ものたくさんの方が集まりました。参加した子どもも大人も真剣な表情で取り組み、出来上がった作品を満足そうに持ち帰りました。



▲ せいか祭り準備 ▲



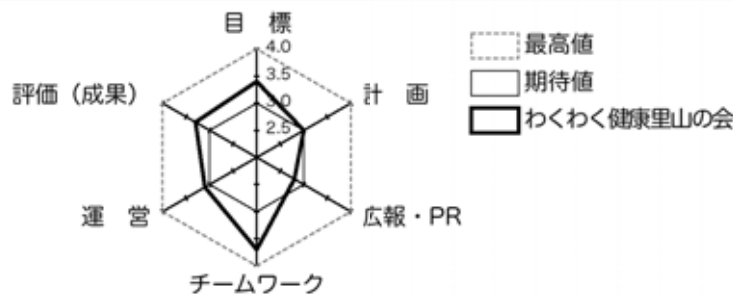
木の枝で作った工作



どんぐり

▲ せいか祭りの様子

### 評価 「わくわく健康里山の会」についてメンバーが振り返った評価



#### <メンバーの評価の感想>

「計画」と「広報・PR」の項目が低い評価でした。

「計画」の低さは、今後の活動への期待があることも理由の一つと考えます。また、健康増進計画の中のリーディングプロジェクトというよりも先に、里山での活動そのものに目がいきがちになっていたと考えます。今後は、初回にメンバーで決めた目標や計画を活動時に意識できるようにして、参加者が自身や周囲の人の健康について考え活動できると良いと思います。そこから健康増進計画の周知の広がりにつながれば、と考えます。

「広報・PR」については、広報手段が口コミであったために、住民周知という点では、課題の残る結果となりました。しかし、メンバー間の関係づくりの基礎がためという意味では、評価の点数から見ても適切な方法であったと考えます。

「チームワーク」の項目が最も高い評価となりました。今後の活動の土台となる部分を大切にできた活動と言えます。項目の中でも「楽しく活動できたか」、「互いに協力し合えたか」が高い評価になっていたことから、元気増進軸がしっかりと盛り込まれた健康づくりのための活動であったと考えます。

#### <参画メンバー>

有馬裕美子(精華台) 石崎照美(植田) 金森春美(光台) 清水龍子(光台) 久保紘司(谷)  
木村時寧(菱田) 藤原文子(光台) 吉村さつき(光台) 安江宏子(光台) 戸上洋子(精華台)  
河波昭代(谷) 井原浩二(菱田) 佐野治彦(在勤:木津川市) 島川公子(南稻) 大喜多良子(谷)  
郷原晴美(光台) 入田明子(衛生課) 松川泰子(衛生課) 上原耕一(産業振興課) 洲上正博(事業部)

## プロジェクト4 健康かわら版

**趣旨** 健康増進計画を、広く浅く、住民の人に知ってもらいたい  
プロジェクトの活動を知ってもらいたい

**目標** より多くの人に健康増進計画とその取り組みを知ってもらい、  
知った人が「楽しそう、自分たちも参加してみたい」と思う

各プロジェクトの活動をできるだけ取材して、できなければ参加者にインタビューしてニュースとして発行します。  
「これ面白いから読んでみて」と、口コミで広がっていくような紙面にしよう！ホームページやブログにもチャレンジを…とアイデア満載で出発しました。

## step 1 取材の内容と方法を検討

プロに入ってもらって「気楽なイメージ」で「おしゃれなかんじ」の手に取りやすいものにしたい。

内容は人を描くことで「こんなことをしてる人がいるんや」としてもらい、こんな健康づくりもあるのかと知ってもらいたい、などの意見の中スタートしました。

当初は全ての会議を取材して、アイデアが発展していく過程を知らせたいとの思いがあったのですが、業務との調整が難しく、取材活動は難航しました。そこで、店主が話を聞いて印象に残ったことを全て文章にして書き出し、それをみんなで作り直して記事にするという方法で、すすめていきました。

回数	日時	参加者
1	平成19年 4月23日	4人
2	5月 9日	3人
3	6月 2日	4人
4	6月22日	5人
5	6月27日	5人
6	7月 5日	4人



▲ 初顔合わせ

## step 2 原稿書き→編集→印刷→配布

題字を書道をしている人に頼んだり、食育川柳入選者にコメントを頼んだり、イラストを頼んだりと作業は進行していきました。

初めての発行は、プロジェクトメンバーの感想でした。各グループにだけの配布となりました。

原稿はメンバーとやりとりし、店主がまとめたり、店主が原稿を集めては、メンバーがまとめていくという方法ですすんでいきました。

回数	日時	参加者
7	平成19年 7月10日	2人
8	8月22日	5人
9	9月10日	2人
10	9月18日の週	
11	10月 1日の週	
12	10月24日	4人
13	10月28日	1人
14	10月31日	3人
15	11月 5日の週	
16	11月12日の週	

印刷は、各戸配布分12,000枚の印刷なので、1日ばかりで行いました。

A3原稿にA4を1枚差し込む作業が大変で、職員や「よっといで工房」北稻サロン、「これから塾」の参加者、その他有志の方の協力を得て行われました。

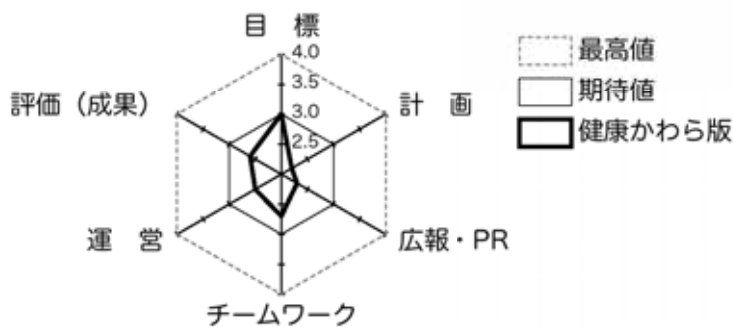


健康かわら版写真

発行 NO	健康かわら版発行日	発行部数
0号	平成19年 8月22日	グループメンバーに配布
第1号	10月 3日	各戸配布 12,000枚
第2号	11月16日	各戸配布 12,000枚
最終号	12月 7日	各戸配布 13,000枚

かわら版発行後は、「見たよ!」「こんなことしてたんやねえ」と反響が各所であり、プロジェクトへの参加の輪も広がったようです。

### 評価 「健康かわら版」についてメンバーが振り返った評価



#### <メンバーの評価の感想>

全体的に低い評価になりました。

特に「計画」が低くなっています。もともと計画をしたときは、「メンバーで取材に行って、記事を書こう」というものでした。しかし、取材にはほとんどいけず、メンバーを広げて実施しようとしたのですが、取材メンバーを広げることができず、1人が取材してその記事を4人が編集する方法になりました。自分で見て感じて伝えたいことを書く、という方法でなかったため、「満足感・達成感」も低くなりました。

取材に行かないで作成する新たなアイデアが出ないままに、当初の計画通りの紙面を作ったことが、評価が低くなった理由の一つだと考えます。

発行したことで、当初の目標は達成できましたが、「計画」が大切であること、また、当初の計画が実行できなくなったときに、変更する柔軟性が大切なのではないかと思いました。

#### <参画メンバー>

河西 聖子 (生涯学習課)    田邊 伸良 (社協)    千葉 圭子 (山城南保健所)  
平井 順 (都市整備課)    藤原 奈緒 (衛生課)

## プロジェクト5 食育川柳の会

**趣旨** 食の大切さを伝える

**目標** 家族で食について考える機会を新たにもってもらう

**対象** 小学校4・5・6年生とその保護者

はじめは「おにぎりコンテスト」をしようとのアイデアが出ましたが、せいか祭りで似た企画があることがわかったこと、夏場は、食品を扱う企画はリスクが多いことから、企画を変更しました。食育川柳は、取り組みやすく家族が一緒になって考える機会となることから選びました。選ばれた句を、掲示したり広報誌に掲載したりして、広めます。

### step 1 内容の検討と新企画の決定

「食育川柳の募集」は、親子が食育を考える機会になり、川柳を発表する過程で食育を広めていくことができるという趣旨。

募集ちらしや応募箱の作成など、準備は順調にすすみました。

回数	日時	参加者
1	平成19年 4月23日	5人
2	5月 9日	5人
3	6月 5日	8人
4	6月28日	8人
5	7月 5日	4人

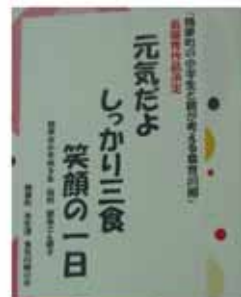
ちらし配布先	枚数
精北小学校	146枚
川西小学校	169枚
山田荘小学校	251枚
東光小学校	358枚
精華台小学校	419枚
計	1,343枚



▲ メンバー初顔合わせ



▲ 集会所に優秀作品を掲示



▲ 掲示ポスター

**step 2 応募川柳の回収、選考、表彰**

- ◇応募期間 7月6日～20日
- ◇応募枚数 232枚

232作品の中から12人の選出委員が優秀作品を決定しました。優秀作品作成者への連絡、広報、ポスター掲示など役割分担をして行いました。ポスターは町内各所へ100枚近く掲示しました。



回数	日時	参加者
6	平成19年 7月18日	5人
7	7月20日	4人
8	7月31日	8人
9	8月 3日	7人
10	8月27日	5人
11	9月 3日	4人
12	10月23日	6人



▲ 選考

**step 3 パネル展示と活動のまとめ**

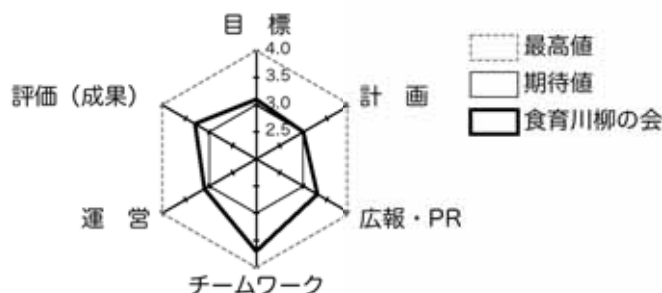
最優秀作品1点と、優秀作品7点のポスターを使用してパネルを作成し、せいか祭りで展示しました。その後、これまでの活動のまとめや今後の方向性を確認し合いました。

回数	日時	参加者
1	平成19年11月26日	4人
2	12月 3日	4人



◀ 優秀作品展示パネル

**評価 「食育川柳の会」についてメンバーが振り返った評価**



<メンバーの評価の感想>

運営メンバーは常に4、5人と少人数であったもののチームワークが良く、作業がスムーズに進み、評価はどの項目についても、期待値を満たしました。しかし、スタッフの人数をもう少し増やしたほうが、活動内容の幅が広がり、無理のない活動ができたと思います。

活動については達成感があったものの、実際、住民のニーズにあったかが問題となると、今後、住民ニーズを把握するとともに、食事改善のきっかけ作りとなる活動内容を計画する必要性を感じました。

<参画メンバー>

- 鈴木 照子 (在宅栄養士)      田中 智美 (桜ヶ丘)      福味 真樹紅 (里)
- 藤田 圭子 (在宅栄養士)      宮本 潤子 (南)      片岡 真美 (児童育成課)
- 高橋 幸子 (衛生課)

## プロジェクト6 せいかてくてく ぶらぶら けいかく

**趣旨** 自分に合った運動を続ける  
歩くことを通してコミュニケーションをはかる

**目標** 楽しく歩く人を増やす  
町の再発見  
いろいろな人と交流する

取り組みのテーマは「運動を続けること」。  
続けるためには、楽しい企画だったり、ごほうびだったり、得るものがあるのがよいのではないかとこの発想の元、企画を進めました。

### step 1 メンバーの意識統一と企画の統一

運動を続けるための「しかけ」づくりの案を出し合いました。イベントをやりたい、ウォーキングマップを作りたいなど、たくさんの意見が出ました。

実際にコース下見を行い、イベントのイメージがつかめたことにより、メンバーの気持ちもまとまり、企画案もまとまってきました。



▲ コース下見

回数	日時	参加者
1	平成19年 4月23日	11人
2	5月 9日	8人
3	5月25日	9人
4	6月13日	11人
5	6月18日	10人
6	6月25日	9人
7	7月 3日	8人
8	7月 5日	8人



▲ 企画内容打ち合わせ

### step 2 ウォーキングイベント開催準備と運営

メンバー間で実施内容の具体的なところまで共通認識できるようになり、準備も役割分担をして行いました。

プロジェクトがまとまり始めました。

10月28日に開催された、役場～精華台コースを歩くウォーキングイベントは、参加者53名。ウォーキング後にミニゲームを実施したり、地場野菜の販売を行い、地域交流にもつながりました。また、今後の運動の継続へつながるように、運動体験券やチャレンジカードのポイントを渡しました。

回数	日時	参加者
9	平成19年 7月18日	9人
10	7月31日	11人
11	8月 7日	3人
12	8月20日	5人
13	8月23日	8人
14	10月17日	11人
15	10月28日	9人



広報内容打ち合わせ ▶



▲ 10月28日ウォーキング後のミニゲーム

## step 3 活動の成果を発表

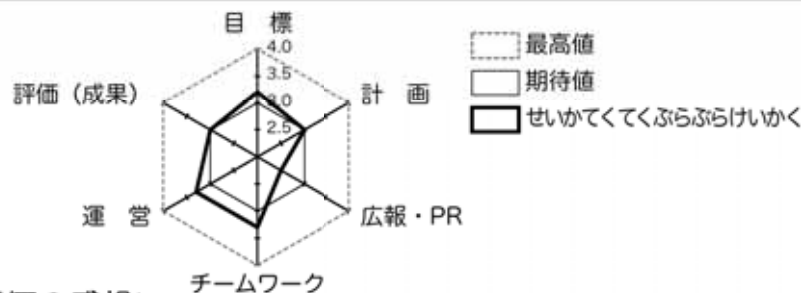
回数	日時	参加者
16	平成19年11月15日	5人
17	11月30日	6人

イベントの様子を模造紙にまとめ、せいか祭りに展示しました。20人程度が写真を見たり、マップを手にとって見ており、当日の様子や経過を説明しました。



▲ せいか祭り発表媒体

## 評価 「せいかてくてくふらふらけいかく」についてメンバーが振り返った評価



## &lt;メンバーの評価の感想&gt;

- ・「計画」については、住民ニーズを知るための情報収集が不十分でした。
- ・スタッフ体制については、イベント当日スタッフが5～8名程度必要でした。
- ・「広報・PR」については、もっと積極的なPRが必要でした。
- ・よくあるウォーキングとは違って、ウォーキングを通して交流をはかるゲームがあること、精華町を知る（遺跡、地場野菜など）取り組みを入れたことをPRすれば、親子での参加が増えたのではないのでしょうか。
- ・「ピノスの体験優待券」を配布しましたが、利用者は0名でした。ピノスで「こんな内容の運動ができる」「いろいろな年代層が利用している」というPRをすれば良かったのではないのでしょうか。
- ・今回は予算がなかったのですが、もっと広い視点でいろいろな取り組みを入れるなら、予算がないとおもしろい企画に取り組みにくいと思われます。思いついた内容も、予算がなくてできないとメンバーのモチベーションも下がります。少し予算があった方がよいと思います。

## &lt;参画メンバー&gt;

榎木 蘭 雄三（衛生課） 岡田 知恵子（子育て支援センター） 片山 光紀（北ノ堂）  
 瓦 俊夫（生涯学習課） 喜多 一成（スポーツクラブ pinos） 強田 富美恵（光台）  
 齋藤 千冬（衛生課） 志茂 和勝（光台） 仲村 大（生涯学習課） 平林 里佳（衛生課）  
 原田 和代（南） 山下 信永（生涯学習課）

**評価 (See)**

住民参加・参画型の活動を自己評価するためのチェックリスト（自己評価シート）を全員で話し合い、作成しました。

そして、プロジェクトごとに、この自己評価シート（77～78ページ参照）に基づき、プロジェクトの企画―実践―評価の各段階をチェックし、次年度以降へ向けての課題と方策を整理しまとめました。（各プロジェクトの評価欄に結果を記載）

**< 総括 >**

活動の企画―実践―評価という一連の流れを住民主導で試行的に取り組むことで、計画書の実践に向けて、住民参加・参画型の取り組みのノウハウを確認することができました。